

“全会員と話し合え”

告発する会 チッソ正門に座込み

「なぜ社長のワジ状を出すと言いつつ出さないか」とただしたが、東平部長が「遅れて申しわけない」とあやまった。

来る十月二十五日「新認定患者との自主交渉に応せよ」とチッソ水俣工場に乱入した熊本・水俣病を告発する会(本田啓吾代表)は八日午後、再び話し合いを求めて、チッソ水俣工場正門前ですわり込んだが、トラブルはなかった。同会はさきの私人事件のさい、チッソ側から「話し合いに応じる」との約束を取りつけていた。その後チッソ側から八、九日以降、代表との話し合いを申し入れていたが、告発側は「会員への連絡などから日時を決めにくい。代表だけでなく会員と会え」との態度だった。

八日は午後一時すぎから約五十人が、チッソ正門前に集合し、佐

々木三郎支社長(常務取締役)山根勇一工場長との面会を要求したが、両氏とも不在で、東平圭司総務部長らが応対した。しかし話し合いのスケジュールなどに両者の食い違いがあり、結局、押し問答のあと「新認定患者の補償解決を中央公害審査会へ任せるな」と抗議してすわり込みとなった。

正門は先月二十五日以来有煙鉄線が張られ、また一日からの新認定患者のすわり込みからとびらも閉ざされたままになっており、この日は工場外での静かな抗議行動となり、午後五時に散会した。

また、近くにテント小屋を建ててすわり込みを続けている川本輝夫さん(50)も交渉を申し入れ



チッソ正門前にすわり込んだ会員たち